

## 平戸イギリス商館員エドモンド・セイヤーズの日記試訳

伊 東 秀 征

Temporary Translation of Diary of Edmond Sayers,  
a Member of the English Factory at Hirado

Hideyuki Ito

1613年から同23年にかけて存続した平戸イギリス商館には、設立当初、八人のメンバーが居た。商館長リチャード・コックス以下、ウィリアム・アダムズ、テンペスト・ピーコック、リチャード・ウィッカム、ウィリアム・イートン、ウォルター・カーワードン、エドモンド・セイヤーズ、ウィリアム・ニールソンの面々である。

ところで、このメンバーの一人、セイヤーズの書き残した日記<sup>(1)</sup>については、従来、その存在さえも、我国ではほとんど知られて来なかった。従って、本稿では、平戸イギリス商館史研究の進展を図るため、この日記を試訳してみることにした。

8. 23 (1618)	今日は日曜日、日本の祭の日であるが、コックス商館長とニールソン氏は都 <sup>(2)</sup> に向けて平戸から出発した。
8. 24	今日、我々は按針様 <sup>(3)</sup> から手紙 <sup>(4)</sup> を一通受け取ったが、彼は、彼らが今月、八月十九日に大坂の河へ到着した、そして、ガレー船の船長がその船から出て行く大きな落下物を受け止め、彼の性器を大変傷つけたと書いていた。
8. 29	土曜日、我々は、我々の一隻の天当船を介して、キャプテン・アダムズから我々の商館長に送られて来た手紙 <sup>(5)</sup> を三通受け取った。
8. 30	今日、我々は、江戸の商人マデン・リッケ <sup>(6)</sup> を介して、都に居るコックス商館長に、キャプテン・アダムズの手紙の再配置と我々の船の帰還に関する手紙 <sup>(7)</sup> を一通送った。

9. 7	今日、我々は、庄兵衛殿 <sup>(8)</sup> の勘定書と共に、コックス商館長に手紙 <sup>(9)</sup> を一通送った。
9. 8	今日、我々は、庄兵衛殿という人を介して、商館長に手紙 <sup>(10)</sup> を一通送った。
9. 12	今日は日曜日であるが、我々は、昨年我々の皮革を買った一人の商人を介して、我々の商館長に手紙 <sup>(11)</sup> を一通送った。
9. 19	今日は日曜日であるが、二人のスペイン人が長崎から商館へやって来た。
9. 22	今日、我々は、都あるいは江戸に居る我々の商館長に手紙 <sup>(12)</sup> を一通送った。
9. 23	今日、我々は、大坂に居る我々の商館長から手紙 <sup>(13)</sup> を一通受け取った。
9. 30	今日、我々は、琉球に居るウィリアム・イートン氏から手紙 <sup>(14)</sup> を一通受け取った。
10. 1	今日、中国人頭領 <sup>(15)</sup> が長崎からやって来た。そして、今日、ソン号と呼ばれるオランダ船がバンタムに向けて出帆した。
10. 2	今日は土曜日であるが、我々は、江戸に居るコックス商館長に手紙 <sup>(16)</sup> を一通送った。
10. 10	今日は日曜日であるが、我々は、我々の商館長に手紙 <sup>(17)</sup> を二通送った。一通は江戸へ、そして一通は、商館長に送られるべく、私の宿主クラブ・ストリート <sup>(18)</sup> へである。
10. 17	日曜日、一六一八年十月十七日であるが、今日、我々はコックス商館長に手紙 <sup>(19)</sup> を一通送った。
10. 31	今日は日曜日、一六一八年十月末である。
11. 4	今日、我々は、江戸に居る我々の商館長から手紙 <sup>(20)</sup> を受け取った。

11. 5	今日、我々は、キャプテン・アダムズの下僕アントニー <sup>(21)</sup> を介して、中国人頭領の手紙 <sup>(22)</sup> を長崎へ送った。
11. 7	今日は日曜日、十一月七日であるが、我々が、我々の宿主コウサ殿 <sup>(23)</sup> の下僕、留を介して、商館長に、中国人頭領と藤左衛門殿 <sup>(24)</sup> に関する手紙 <sup>(25)</sup> を一通送った以外、特記事項はない。
11. 14	今日は日曜日であるが、我々は、備後鞆の我々の宿主の息子を介して、都に居る商館長に、藤左衛門殿と中国人頭領に関する手紙 <sup>(26)</sup> を一通送った。
11. 17	今日、私は、長崎に居る片目のアルフェリス氏 <sup>(27)</sup> から手紙 <sup>(28)</sup> を一通受け取った。
11. 18	十八日、我々は、ウィリアム・イートンから我々の商館長に宛てられた手紙 <sup>(29)</sup> を受け取った。
11. 22	今日は日曜日であるが、特記事項はない。
11. 23	今日は月曜日であるが、我々は、我々の商館長キャプテン・コックスからの手紙 <sup>(30)</sup> と、中国人頭領キャプテン・アンドレア・ディティス <sup>(31)</sup> に宛てられた手紙 <sup>(32)</sup> を一通受け取った。
11. 29	今日は日曜日であるが、特記事項はない。
11. 30	今日は三十日、今月末であるが、我々の早舟は中国人頭領のために長崎へ出かけた。
12. 3	今日は木曜日、十二月三日であるが、オランダ人は彼らのジャンク船の帆柱を準備した。
12. 13	今日は日曜日であるが、我々は、都に居る我々の商館長から手紙 <sup>(33)</sup> を一通受け取った。
12. 15	今日、我々は、我々の商館長に手紙 <sup>(34)</sup> を一通送った。
12. 20	今日は日曜日であるが、特記事項はない。

12. 29	今日は月曜日、聖嬰児日、十二月二十九日 <sup>(35)</sup> であるが、ヨウクカン・ア・カメー <sup>(36)</sup> が薩摩から戻り、我々の商館長が戻っているか否か知るために、我々に挨拶の言葉を送って来た以外、特記事項はない。
1. 8 (1619)	今日は金曜日、一月八日であるが、我々の商館長とニールソン氏は都から戻り、平戸へ到着した。
3. 6	今日は土曜日であるが、コックス商館長は平戸に向けて長崎から出発した。今日、三本のオランダの旗が三隻の高砂 <sup>(37)</sup> のジャンク船から退けられた。
3. 7	今日、キャプテン・バルナルド <sup>(38)</sup> の下僕が私の所に来て、彼は七日以内に出帆するので、我々が我々の商品を積み込むことを要望した。そして、今日、我々は、我々の商品を通い舟に積み込んだ。
3. 11	今日は木曜日であるが、高砂のジャンク船は河口へ下る準備を整えた。今日、私は手紙 <sup>(39)</sup> を二通平戸へ送った。一通はコックス商館長に、そして一通はオスターウィック氏 <sup>(40)</sup> にである。今日、四隻の高砂のジャンク船が出帆した。

(1) Anthony Farrington (ed.), *The English Factory in Japan 1613-1623*, vol.2,

The British Library, 1991, pp. 1535-37.

(2) 京都のことである。

(3) アダムズの日本名である。

(4) この手紙は現存しない。

(5) これらの手紙は現存しない。

(6) この人物について、詳細は不明である。

(7) この手紙は現存しない。

(8) 朱印船貿易家である。

(9) この手紙は現存しない。

(10) この手紙は現存しない。

(11) この手紙は現存しない。

(12) この手紙は現存しない。

(13) この手紙は現存しない。

(14) この手紙は現存しない。

- (15) 李旦のことである。
- (16) この手紙は現存しない。
- (17) これらの手紙は現存しない。
- (18) 大坂の宿主、久保九右衛門の渾名である。
- (19) この手紙は現存しない。
- (20) これらの手紙は現存しない。
- (21) この人物について、詳細は不明である。
- (22) この手紙は現存しない。
- (23) この人物について、詳細は不明である。
- (24) 堺の宿主、平野屋藤左衛門のことである。
- (25) この手紙は現存しない。
- (26) この手紙は現存しない。
- (27) 長崎在住のスペイン人、ギリエルモ・デ・ラ・バルレーダの渾名である。
- (28) この手紙は現存しない。
- (29) これらの手紙は現存しない。
- (30) これらの手紙は現存しない。
- (31) 李旦の別名である。
- (32) この手紙は現存しない。
- (33) この手紙は現存しない。
- (34) この手紙は現存しない。
- (35) 12月28日の誤りではないかと考えられる。
- (36) この人物について、詳細は不明である。
- (37) 台湾のことである。
- (38) 長崎在住の日本人船長である。
- (39) これらの手紙は現存しない。
- (40) 1615年に来日し、商館員となったジョン・オスターウィックのことである。